

化学委員会 物理化学・生物物理化学分科会（第 26 期・第 4 回）

議 事 要 旨

日時：令和 7 年 12 月 1 日（月）、13 時 00 分～17 時 00 分

会場：（ハイブリッド開催）分子科学研究所及びオンライン会議（Zoom）

出席者（14 名）：

（会場：7 名）

阿部 竜、阿波賀 邦夫、岡本 裕巳、中井 浩巳、内藤 俊雄、山内 美穂、山本 浩史

（オンライン：7 名）

相田 美砂子、石谷 治、大越 慎一、北川 宏、栗原 和枝、黒田 玲子、所 裕子

欠席者（10 名）：上野 祐子、腰原 伸也、森 初果、神取 秀樹、田和 圭子、中嶋 敦、細越 裕子、松田 巖、村越 敬、山本 達之

参考人（3 名）：大庭良介准教授（筑波大学）、杉山（矢崎）陽子教授（沖縄科学技術大学院大学、OIST）、中垣俊之教授（北海道大学）

議事 日本の研究力の現状分析と回復に向けた方策

阿波賀委員長が、本会議では、日本の研究力低下に関する課題認識を共有し、政策的観点から検討することを目的することを確認した。さらに、以下のように 3 名の参考人による話題提供をもとに、研究領域の推移分析や国際比較データに基づいた研究政策設計の課題と方向性について議論を行った。

（1）参考人による話題提供（各 45 分程度）

（話題 1）大庭良介准教授（筑波大学）

“ノーベル賞を育む基礎研究の施策とは：文献・科研費データベース分析の事例から”

（話題 2）杉山（矢崎）陽子教授（沖縄科学技術大学院大学、OIST）

“Fostering research excellence: lessons learned from OIST model”

（話題 3）中垣俊之教授（北海道大学）

“イグ・ノーベル賞と伴走した生物行動の原点探索”

（2）パネル討論

中井委員が、日本の研究環境の現状を確認するとともに、科学技術立国としての基盤強化の重要性を示した。さらに、1. 日本の研究環境の現状、2. 研究費配分と制度設計、3. 人材育成と大学院教育、4. 人材評価・AI 時代の教育の観点から議論を行った。

(3) まとめ・今後の課題

全体を通じて、研究費配分の多様化、若手・学生の育成環境の充実、評価と自由度のバランス、そして AI 時代における研究室教育の意義が主要な論点として共有された。本会議の議論内容は次回の会議に引き継ぎ、具体的検討を進める予定である。

以上